

令和5年度 宇都宮市デジタル共創懇談会

【議事概要】

宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョンの実現に向けて、本市の取組状況とDX実現タスクのローリングの内容について事務局より報告するとともに、各団体と意見交換を行うもの

令和6年2月9日

1 議 事

- (1) 令和5年度における宇都宮市の取組と令和6年度版宇都宮市DX実現タスクの内容について
- (2) 宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョンの実現に向けた意見交換

2 その他

No.	区分	所属名	氏名	(順不同・敬称略)
1	医療	一般社団法人宇都宮市医師会 理事	天谷 健二	欠席
2		一般社団法人宇都宮市歯科医師会 専務理事	半田 功	
3	福祉	社会福祉法人宇都宮市社会福祉協議会 常務理事 兼 事務局長	平手 義章	欠席
4	産業	宇都宮市商工会議所 経営支援部 部長	中島 寿典	欠席
5		公益財団法人栃木県産業振興センター 専務理事 兼 総務企画部長 (新任)	篠原 良一	
6		宇都宮農業協同組合 代表理事常務	見形 繁	
7		一般社団法人栃木県情報サービス産業協会 理事	武田 文夫	
8	市民団体	特定非営利活動法人宇都宮まちづくり市民工房理事 兼 宇都宮市まちづくりセンター長	小倉 克洋	
9		栃木県消費生活リーダー連絡協議会 宇都宮支部 支部長	熊倉 シゲ子	
10	学識経験者	国立大学法人宇都宮大学 総合メディア基盤センター長	永井 明	
11	メディア	株式会社下野新聞社 編集局総務部長	齋藤 明彦	欠席
12	通信事業者	東日本電信電話株式会社 副支店長 ビジネスイノベーション部長	中川 徹	
13	シンクタンク	株式会社あしぎん総合研究所 ITソリューション部長	鈴木 勉	
14	環境	宇都宮ライトパワー株式会社 取締役	竹廣 尚之 (新任)	欠席
15	文化・芸術	公益財団法人うつのみや文化創造財団 常務理事 兼 事務局長	笹原 幸恵	

■ 事務局

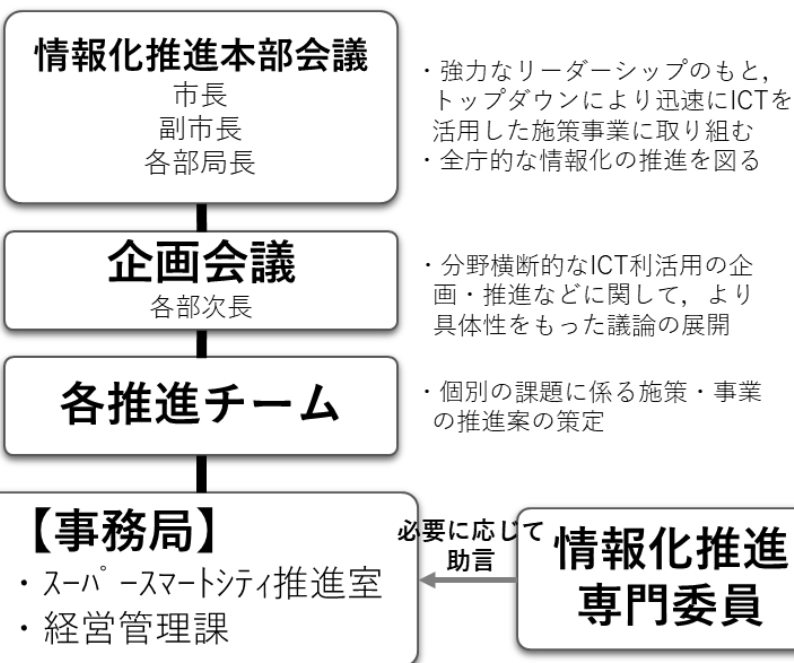
No.	所属・職名	氏名
1	宇都宮市CDXO補佐官	井出 昌浩
2	総合政策部デジタル政策課 課長	大根田 友範
3	総合政策部デジタル政策課 主幹（デジタル担当）	亀澤 伸也
4	総合政策部デジタル政策課 課長補佐	望月 寛
5	総合政策部デジタル政策課 デジタル戦略グループ 係長	安野 健太
6	総合政策部デジタル政策課 デジタル活用グループ 係長	戸上 和明
7	総合政策部デジタル政策課 システム管理グループ 係長	今崎 泰浩

**議事(1) 令和5年度における宇都宮市の取組と
令和6年度版宇都宮市DX実現タスクの内容について**

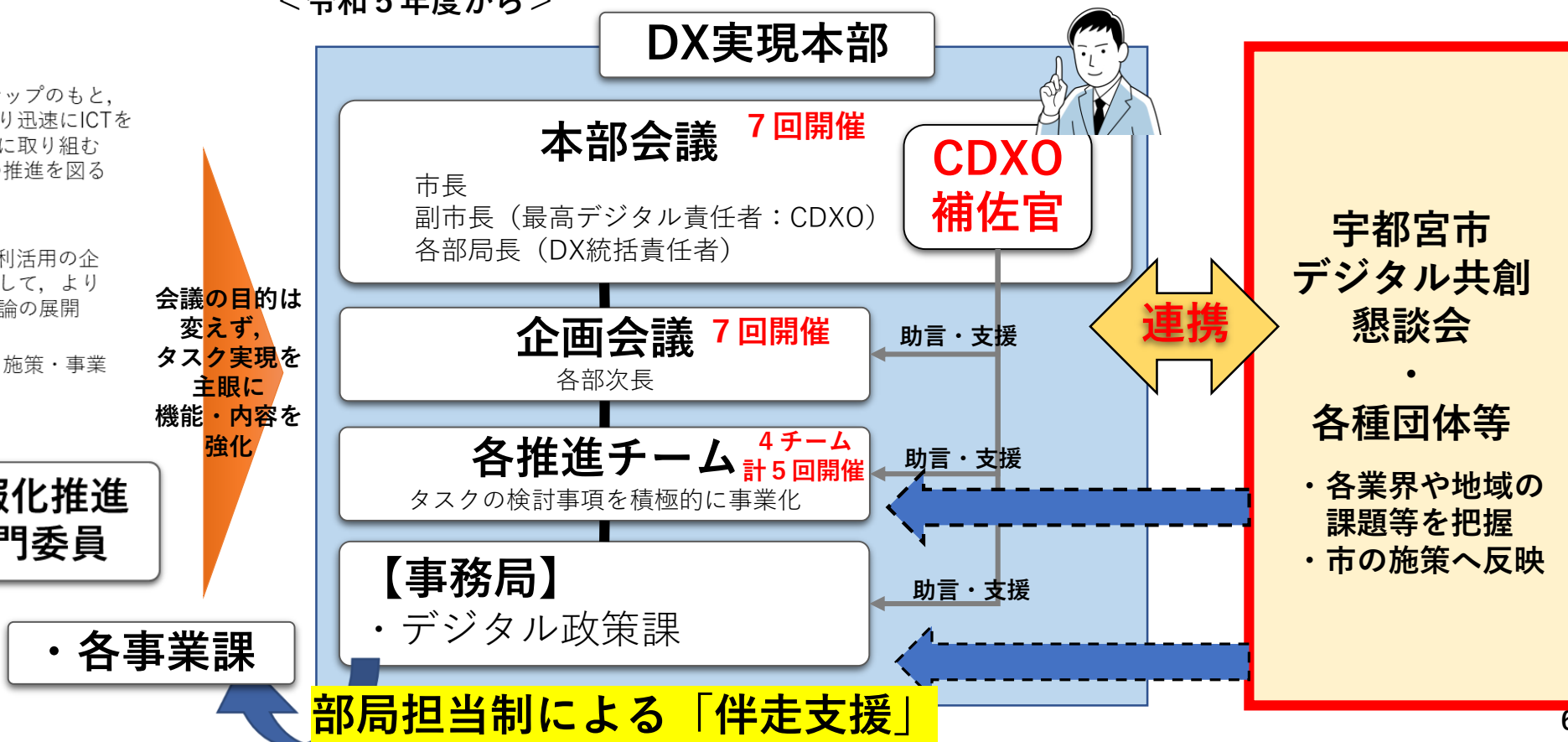
本市のDX推進体制の強化について

- 令和4年度まで設置していた「情報化推進本部」を「DX実現本部」に改め、機能・内容を強化
- 地域との共創をより一層推進するため、外部の専門家である「CDXO補佐官」「DX専門官」を組み入れるとともに、地域や各種団体の意見を市の施策に効果的に反映するため、宇都宮市デジタル共創懇談会（旧：地域情報化推進懇談会）と連携

<令和4年度まで>



<令和5年度から>



本市のDX推進体制の強化について

■ 令和5年度

➤ ビジョン・タスクの策定や新年度体制にあわせ、組織名称・職務・役割を整理し、本部設置要領に規定





名称	機能・職務・役割
宇都宮市DX実現本部	市長をトップとする「宇都宮市情報化推進本部」を改称。
CDXO	本市全体のDXを統括する「最高デジタル・トランスフォーメーション責任者」を新たに設置し、デジタル政策課を担当する副市長をあてる（＝東副市長）。※
DX統括責任者	<u>各部局におけるDXを牽引する役割を担う「DX統括責任者」を設置</u> し、DX実現本部の本部員である各部局長をあてる。
外部人材 CDXO補佐官	CDXOやDX統括責任者との綿密な連携の下、 <u>組織全体に対して専門的・技術的視点からDXを推進する</u> 「CDXO補佐官」を新設する。
外部人材 DX専門官	専門的・技術的視点をもって <u>各部局の取組や個別プロジェクトを指揮命令する</u> 「DX専門官」を新設する。

※CISO（最高情報セキュリティ責任者, Chief Information Security Officer）を兼ねる

※CDXO(Chief Digital-Transformation Officer) ⇒ 「デジタルを活用する」だけでなく、「変革する」ことも重要な要素であることからDXの要素を組み込んだ

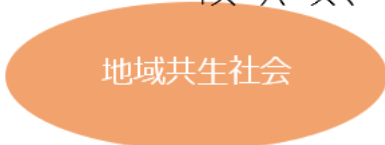
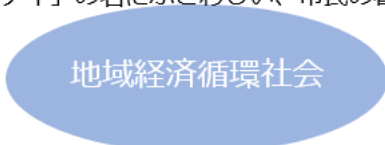
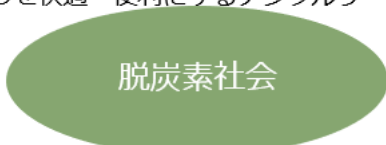

本市のDX推進体制の強化について

▶ 令和5年5月26日に、外部の専門人材を **4名** 任用

	職務・役割	所掌する主なDX実現タスク	重点取組事項（R5優先検討事項）
CDXO補佐官  井出 昌浩 NEC マネージングディレクター 信州大学特任教授	⇒組織全体を俯瞰し、政策課題や技術動向等を踏まえて、どのようなものに積極果敢に取り組んでいくべきか、どのように具体化すべきかなどの戦略について指示 ⇒職員の意識醸成、 DX人材の育成 に取り組む	①スーパースmartシティ実現に向けたデジタルサービスの提供等 ⑥庁内DX人材の育成・確保	・オンライン空間を活用した居場所づくりや戦略的観光の推進 ・文化芸術分野におけるデジタルツイン等の活用等 ・全職員のデジタルリテラシーの底上げ ・DX推進部門職員の知識・スキルの習得・蓄積
DX専門官  東 宏一 GrooveDesigns(株)取締役 デジタル庁プロジェクトマネージャー、福岡市DXデザイナー	⇒サービスデザインの視点から、市民目線で本市の アプリやポイント等の各種デジタルサービスを見直し、実装 していく	②スマート窓口の実現 ③デジタルデバйд対策 ④デジタル社会基盤の強化 ⑦スマートワークの実現	・全庁的な行政手続オンライン化の加速 ・書かない窓口システム導入など ・あらゆる市民がデジタルの恩恵を受けられる環境づくり ・デジタル地域通貨等のスキームの検討 ・アプリやポイントの一元化の検討
DX専門官  川口 弘行 川口弘行合同会社 代表社員	⇒市民サービスの根幹である自治体システムの標準化・クラウド化への確実かつ円滑な移行に向けた 横断的なプロジェクトマネジメント	⑤業務のデジタル変革	・自治体情報システムのシステム標準化・共通化 ・ガバメントクラウドへの移行検討
DX専門官  下山 紗代子 (一社)リンクデータ代表理事 みえDXアドバイザー	⇒デジタル化により生み出されるデータを最大限に生かす 仕組・環境（データアーキテクチャ）の構築を進める	⑧データの利活用	・AIカメラやセンシング技術等を活用したデータ収集手法の検討

重点取組事項

サービス、手続・業務、人、環境のすべての要素におけるDXの実現

	市民視点 (サービスデザインは市民視点で！)	行政視点 (前例にとらわれず、柔軟・迅速に！)
サービス	① スーパースマートシティ実現に向けたデジタルサービスの提供等 (※) <small>「スーパースマートシティ」の名にふさわしい、市民の暮らしを快適・便利にするデジタルサービスを提供します</small>	
		
		
		
	※地域団体・事業者を対象とした支援も含む	
手続・業務	② スマート窓口の実現 すべての市民が、意識することなく最適なデジタル技術を活用して、いつでも・どこでも・簡単に手続が完結する窓口を実現します	⑤ 業務のデジタル変革 紙文化からの完全脱却、規制の抜本見直し、デジタルのフル活用によりデジタルを前提とした業務の在り方への大転換を図ります
人	③ デジタルデバイス対策・デジタル人材育成 市民がデジタルリテラシーを身に付け、デジタルを活用できるようにすることや、市民が安心してデジタルサービスを利用できるようにします	⑥ 庁内DX人材の育成・確保 全職員のデジタルリテラシーを底上げし、専門性の高いDX人材の発掘・育成・適正配置することで、DX組織の確立を目指します
環境	④ デジタル社会基盤の強化 マイナンバーカードやデジタル地域通貨、新たな通信環境など、ハード・ソフトのデジタルインフラを広く普及させることで、本市のデジタル社会基盤を確固たるものとします	⑦ スマートワークの実現 執務環境を全面刷新し、デジタルを最大限に活用して、いつでも・どこでも職員の能力が最大限に発揮される環境を整備します

⑧ データの利活用

宇都宮市DX実現タスクの進捗状況について

重点取組事項別の主な取組事例

重点取組事項	主な取組事例 上段：施策・事業名 ☞下段：具体的な取組内容
①SSC実現に向けたデジタルサービスの提供等	<p>デジタルを活用した検索システムによる認知症になっても安心して暮らせる環境整備</p> <p>☞地域住民が協力して行方不明となった認知症高齢者の早期発見につなげるための新たな「見守りグッズ」や「検索支援アプリ」を導入（8月）し、認知症の方やそのご家族が安心して暮らせる地域づくりを支援（7月公表済）</p> <p>AIを活用した水道管路の劣化予測診断</p> <p>☞水道管路の漏水調査に、新たにAIを活用し、環境ビッグデータや水道管路データを用いた機械学習を行い、水道管路の劣化レベルを予測診断し、漏水の抑制、漏水に起因する事故の防止や管路更新を効率化（9月公表済）</p>
②スマート窓口の実現	<p>市税等の各種公金のオンライン納付</p> <p>☞インターネット銀行からの口座振替が可能になることにより、市民の利便性が向上（令和6年1月31日から口座振替開始予定）</p> <p>マイナポータル・電子申請共通システムによる行政手続のオンライン化</p> <p>☞行政手続オンライン化に関する部局別研修会や事業者・デジタル政策課による伴走支援を実施（7月～）することで、オンライン化を加速し、市民の利便性が向上</p> <p>【行政手続オンライン化数 R4:100手続⇒R5.10末192手続（再掲）】</p>

宇都宮市DX実現タスクの進捗状況について

重点取組事項別の主な取組事例

重点取組事項	主な取組事例 <div style="text-align: right;"> 上段：施策・事業名 ☞下段：具体的な取組内容 </div>
③デジタルデバイス対策 デジタル人材育成	<p>「宮デジサポーター」によるデジタル知識・技術の伝達・支援</p> <p>☞スマートフォンの操作方法などを教える地域のボランティアを養成する「宮デジサポーター」講座を開催（9月～）し、デジタルデバイス対策を推進（7月公表済）</p> <p>【宮デジサポーター R4:0人⇒R5.10末21人（再掲）（11月に追加講座を実施し、年間40人を養成予定）】</p>
④デジタル社会基盤の強化	<p>交通結節点におけるデジタルサイネージ等を活用した効果的な情報発信</p> <p>☞LRT沿線と観光拠点においてデジタルサイネージの運用を開始（8月）し、「公共交通乗換案内」や「店舗や観光地の情報」等を提供することにより、利用者の利便性向上と来訪者の回遊性促進を実現（平均タッチ回数：1.2万回/月）（7月公表済）</p> <p>【デジタルサイネージ設置数 R5.10末：8基（うち大谷コネクトは施設の開業日（11/20）から運用開始予定）】</p>
⑤業務のデジタル変革	<p>ローコード・ノーコード型システム開発・活用の推進</p> <p>☞ノーコード型システム開発サービス「kintone」の活用促進のため、庁内でのアプリ発表会を実施（7月）し、業務効率化を推進。アプリ発表会後は利用者が大幅増</p> <p>【ローコード・ノーコード開発ができる職員数 R4:30人⇒10末：141人（再掲）】</p>

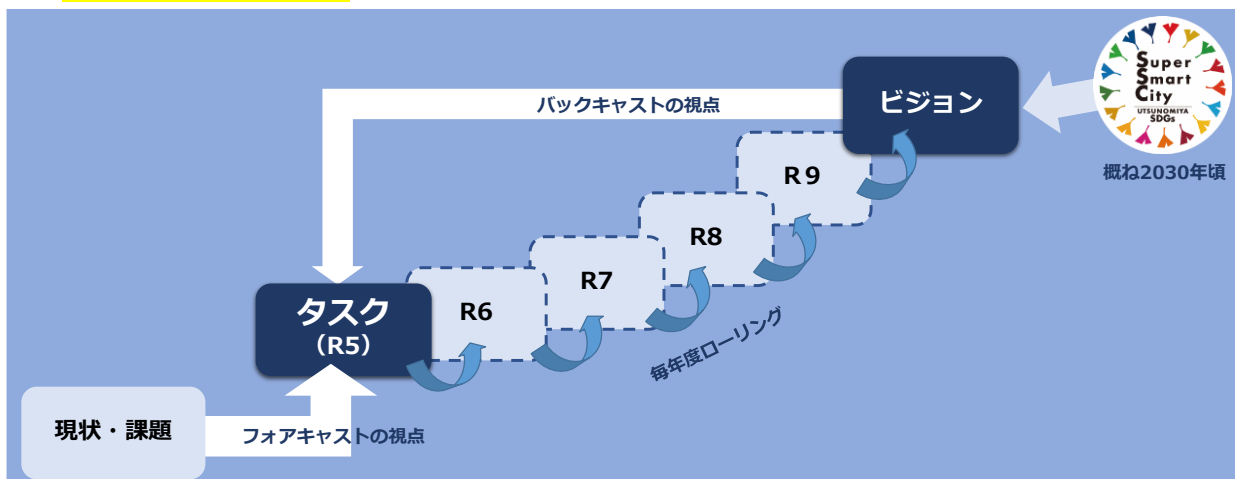
宇都宮市DX実現タスクの進捗状況について

重点取組事項別の主な取組事例

重点取組事項	主な取組事例 上段：施策・事業名 下段：具体的な取組内容
--------	------------------------------------

⑥庁内DX人材の育成・確保	<p>外部デジタル人材の任用</p> <p>外部の高度デジタル人材を、本市のDXを牽引する「CDXO補佐官」・「DX専門官」として4人任用（5月）し、庁内全体のDXを加速</p> <p>【主な従事プロジェクト数 R5.10末：8件※】</p> <p>※DX人材育成，システム標準化・共通化，データ利活用，ポイント事業の一元化 等</p> <p>【職員向け研修回数 R5.10末：5回】</p>
----------------------	---

※デジタルツール（大型モニターなど）が身近になったことや、研修（DXマインド研修），デジタル政策課の伴走支援が活用されることにより、本市DX推進の基盤となる、職員のデジタルを活用する意識が数段向上。今後、より一層、市民生活の質の向上や多様化・複雑化する地域課題等の解決に向け、全庁を挙げてDXに取り組んでいく



日々進展するデジタル技術や各取組の進捗状況，改定された国の「自治体DX推進計画」等を踏まえ，DX実現タスクの内容を令和6年2月に見直す（ローリング）

①SSC実現に向けたデジタルサービスの提供等『福祉分野』

「検索支援アプリ」の導入

- 地域住民が協力して行方不明となった認知症高齢者の早期発見につなげるため、「検索支援アプリ」令和5年8月1日から導入
- 認知症の方の行方不明時に、家族などからの協力依頼や地域住民による検索協力が容易に行えるスマホアプリを活用して市が管理・運営
- 地図機能や掲示板機能などのデジタル技術と「認知症見守りグッズ」を組み合わせ、市民が検索活動に参加しやすい仕組みとし、地域における支え合い活動を支援

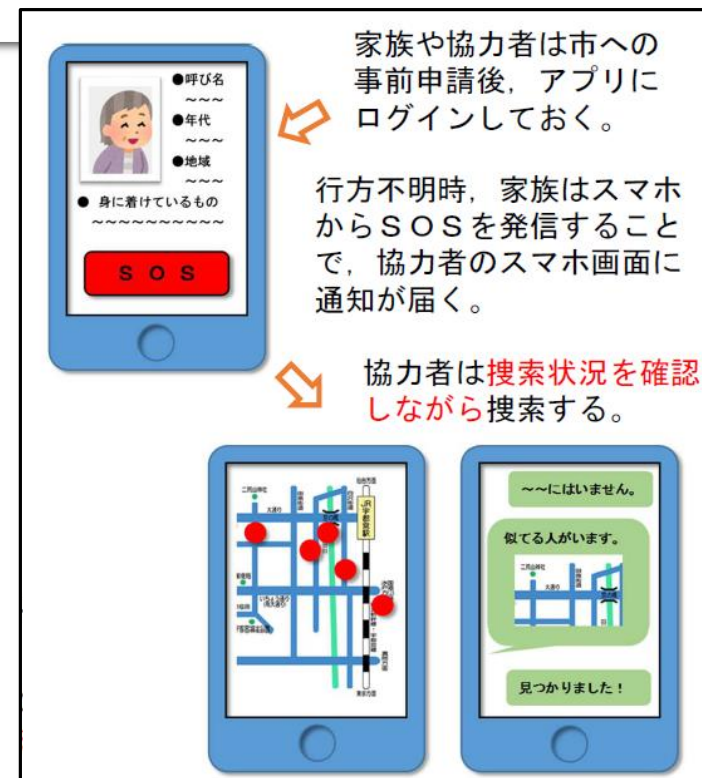
【利用開始までの流れ（家族・協力者共通）】

- ① 事前申請 高齢福祉課の窓口で受付
 - ② ID取得 市がログインに必要なIDとパスワードを付与
 - ③ ログイン アプリをダウンロードしてID認証
- ※ ご家族には見守りグッズ申請時や地域包括支援センターの訪問時、地域住民には認知症サポーター養成講座等でスマホ操作を補助
- ※ 利用者自己負担なし



【認知症見守りグッズ】

認知症の方を対象にステッカーやカードケース等の見守りグッズを配布



①SSC実現に向けたデジタルサービスの提供等『防災分野』

河川監視カメラ画像と水位計情報のウェブ配信

- 近年、台風や局地的豪雨に伴う浸水被害が多発化・激甚化する中、本市においても、**これまで以上に迅速な災害対応を図るため**、「宇都宮市総合治水・雨水対策推進計画」における「備える」取組として、**市管理河川の水位状況などをリアルタイムで確認できる河川監視カメラ・水位計を設置し、令和5年6月1日から運用を開始**
- 本市管理河川のカメラ画像・水位情報については、**国土交通省ウェブサイト「川の防災情報」等により、自宅などの安全な場所からパソコンやスマートフォン等で簡単に確認することが可能**

■ 閲覧箇所

2つのWEBサイトにより、国・県・市の河川監視カメラ等の画像・水位情報を確認可能

◆国土交通省「川の防災情報」 [URL：https://www.river.go.jp/index](https://www.river.go.jp/index)

◆危機管理型水位計運用協議会「川の水位情報」 [URL：http://k.river.go.jp/](http://k.river.go.jp/)



「川の防災情報」における「細谷町新川」の例



河川監視カメラ



水位計

②スマート窓口の実現『行政手続オンライン化』

- 7月～8月にかけて計13回，部局別の研修会を開催。各所属から1名以上の職員が参加し，**全庁で約300人が受講した。**
- 電子申請共通システムの基本的な操作方法，申請フォームの作り方の演習などを実施し，**参加した職員はオンライン化に取り組む機運が高まった。**

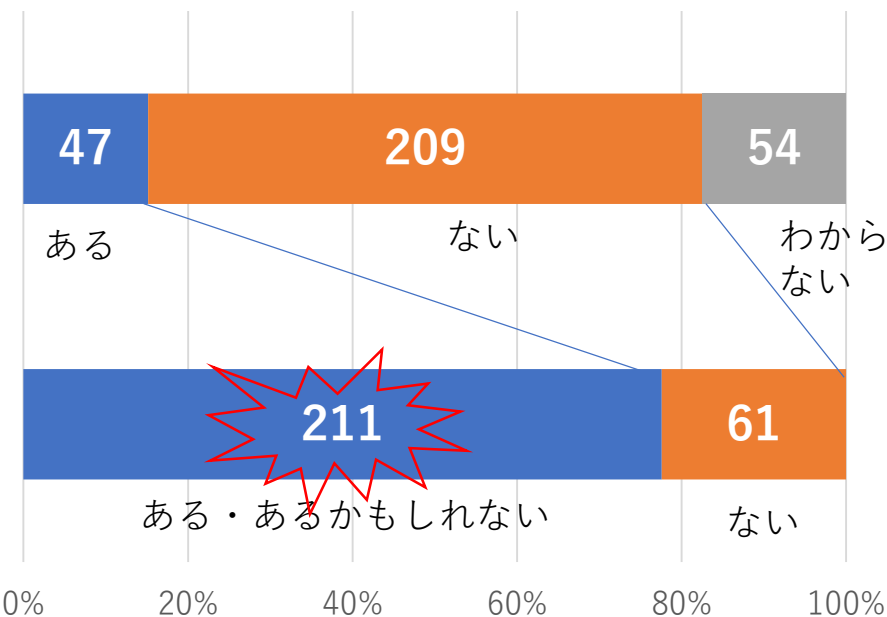
研修の様子



受講者アンケート (単位：人)

【受講前】

所属グループで，電子申請共通システムで手続を作成したことはありますか？



【受講後】

所属グループで，電子申請共通システムで作成できそうな手続はありますか？

→ 受講後は，8割の所属で，電子申請共通システムで手続を作成できる可能性があるという回答

②スマート窓口の実現『行政手続オンライン化』

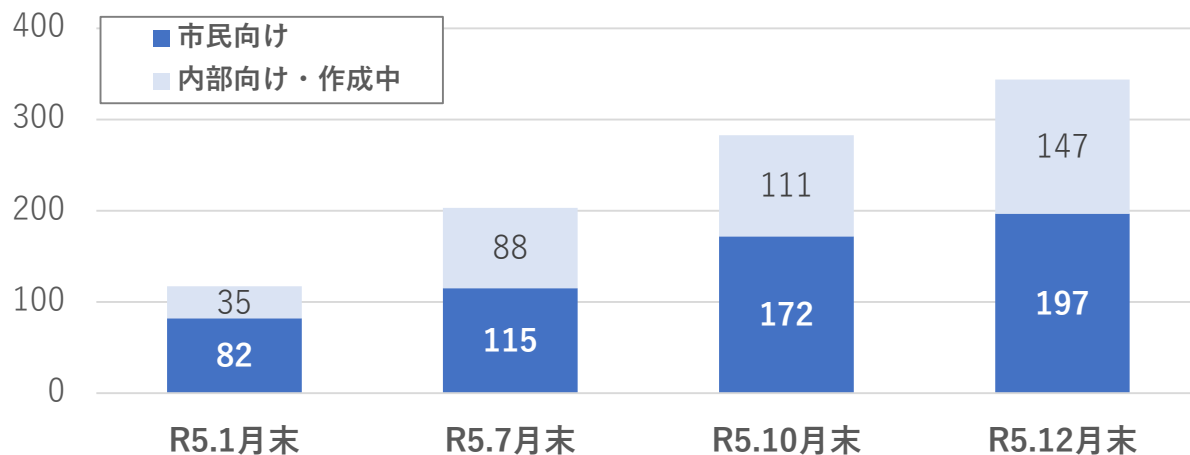
- 所管課のオンライン化への取組をバックアップするため、支援希望所管課を電子庁内掲示板で募集した。
- 毎週木曜日（1課1時間）に実施しており、12月末までに**27課を対象に49回の相談支援**を実施
- 現在も伴走支援は継続中で、オンライン化に取り組む課室職員は日々、着実に増加しており、電子申請共通システムでの公開手続数は、**令和5年12月末時点で延べ197件**であり、各課の取組により、市民向け、内部向けともに着実に増加している。

主な相談内容

- ・ 市民から紙で申請を受けている手続をオンライン化するため、申請フォームの作成方法など、具体的なシステムの使い方を教えてほしい。
- ・ 作成した申請フォームへのアドバイスがほしい。
- ・ キャッシュレス決済の機能について教えてほしい。



電子申請共通システム手続件数



伴走支援を通じて実際にオンライン公開した手続の例

- ・ 契約課.....入札参加資格 取消届
- ・ 資産税課.....土地売買実例価額調査
- ・ 生涯学習課...子どもの家利用許可申請

➔ 手続の拡大とともに、市民に利用してもらえるような周知や利用促進も併せて実施していく！

③デジタルバード対策・デジタル人材育成

➤事業者及び地域団体のDXを推進する取組の全体像

デジタル化の進展度
(レベル感)

低 (無関心) (未体験) (興味) (初歩) (理解) (活用) (応用・展開) (研究・技術開発) 高

取組の対象

大企業

中小企業

地域活動団体等

市民

「金融機関と連携したデジタル化支援(本市)」★
・専門家の派遣

- ①「ICTに関する各種補助事業等(本市)」
- ②「中小機構などによる各種支援事業(国)」

「デジタルハブ事業(栃木県)」
・ICTを活用した地域課題の解決に向けた実証実験
・企業間等のプロジェクト促進(企業間のマッチング)

「Uスマート推進協議会(本市)」★
・先進技術等を活用した社会課題の解決、新たな事業の創出に向けた民間主体による実証実験の実施

「うつのみやデジタルスクエア(本市)」★
・デジタル化に関する取組事例の紹介
・専門家に質問・相談できる場の提供

- ①「宮デジサポーター養成事業(本市)」★
・デジタルに関する地域ボランティアの養成及び活動支援
- ②「ICTに関する各種講座(本市)」
・主に高齢者を対象としたスマホの基本的な使い方に関する「講座」の開催など
- ③「デジタル活用支援事業(国)」
・携帯キャリア等による主に高齢者を対象とした「講習会」の実施など

【凡例】
:対象毎の分布

➤ 高齢者等のデジタルに不慣れな方が、**身近な場所で相談**でき、**地域で支え合う**新たな仕組みとして、スマートフォンの**操作方法**などを教える**地域のボランティア**を養成するため、市民団体と連携した「**宮デジサポーター**」講座を開催

身の周りの高齢者からの相談対応

最近、スマホの画面がかたまることが多くて...



定期的に再起動するといいよ！

「宮デジサポーター」の活動イメージ

団体活動の際に小規模なスマホ勉強会を開催



今日はLINEを活用して次の集まりの日程調整をしてみましょう！

市が主催するスマホ講座等の講師や補助員として協力（有償）



募集要件

1. 宇都宮市に在住・在勤・在学の**18歳以上**の方
2. 身の周りの高齢者等にスマホの使い方などを**教える意欲**のある方
3. 日頃から**スマートフォン**を利用している方
4. 3回の講座を**すべて受講**できる方

LINEが使える程度でOK！

宮デジサポーター認定証

うつのみや たろう
宇都宮 太郎 様

宇都宮市は、上記の者を宮デジサポーターとして認定します。

2023年09月30日
宇都宮市総合政策部デジタル政策課



➤ 「宮デジサポーター」講座の実績

- 令和5年9月と11月に2回開催し、
合計40名の方を宮デジサポーターに認定
- 講座の理解度・満足度は受講者から高く評価

➤ 「宮デジサポーター」の活動状況

- 主に、市が主催する講座等の補助員として活躍中
宮デジサポーターが支援した人数：253名

(令和5年12月31日時点)

活動内容	支援回数
市が主催するスマホ講座等の補助員として協力	31回
スマホ勉強会の開催	21回
身の周りの高齢者等からの相談対応	9回



■ 補助員協力の内訳

【市主催】

- 老人福祉センター
「初心者スマートフォン講座」
- 中央市民活動センター
「公共施設予約・案内システム説明会」
- 高齢福祉課
「検索支援アプリ」操作説明

【市社会福祉協議会主催】

- 「老人クラブ連合会（女性部会）スマホ勉強会」

【河内地区自治会主催】

- 「スマホ勉強会」

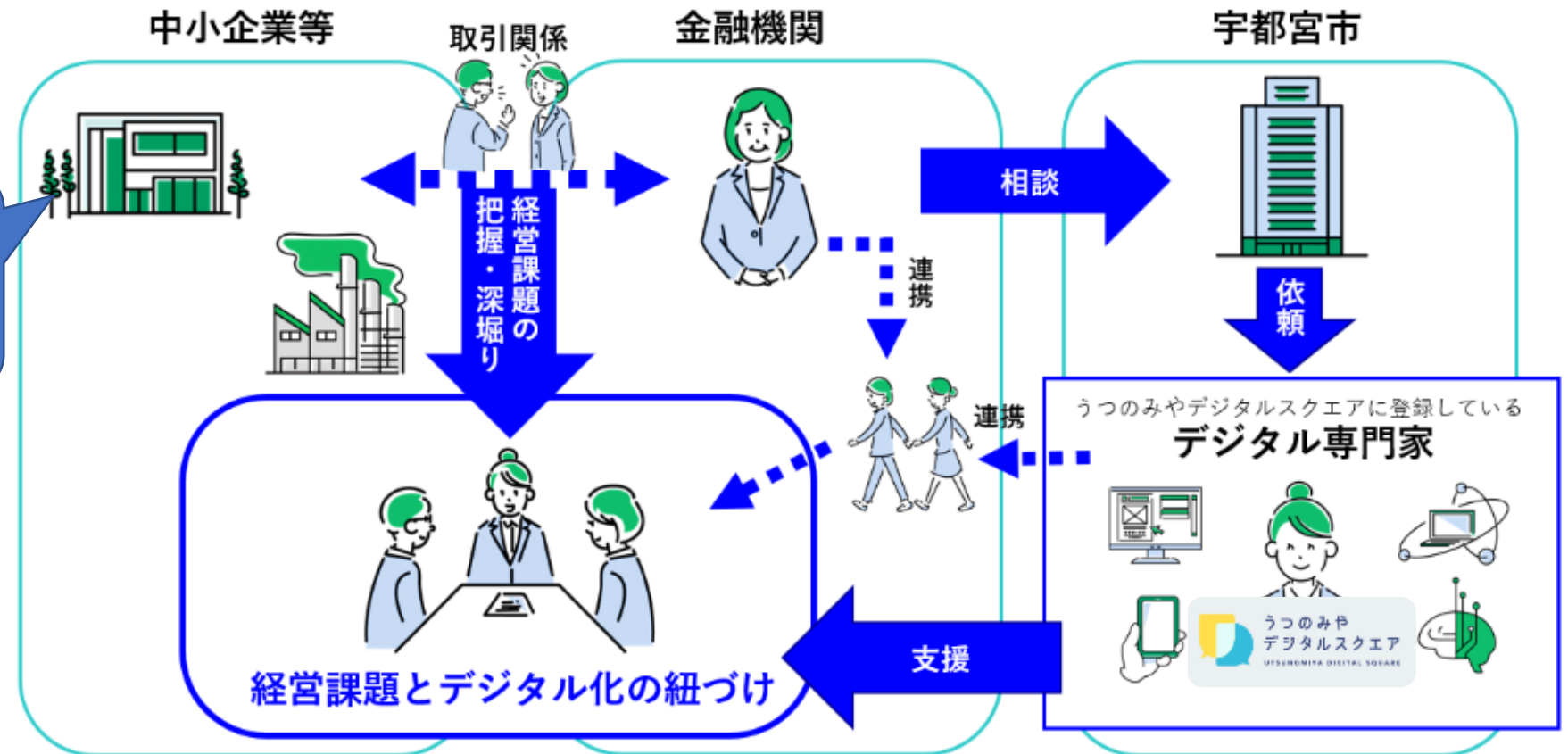


➔ 宮デジサポーターの養成については、当初の計画を上回るペースで進んでいるが、サポーターごとに知識レベルや活動の範囲などの状況が異なっていることから、今後は一人一人に寄り添った活動支援を実施し活動に繋げていく！

➤ 「足利銀行・市内の信用金庫と連携した中小企業のデジタル化支援」

中小企業の経営課題を把握している金融機関と宇都宮市が連携し、デジタル専門家を派遣することにより、アナログ中心やデジタル化の初期段階にある中小企業の支援に取り組んでいる。

信用金庫との連携開始から約3か月間で、計4件の派遣支援を実施！



➤【相談事例①】 ネット販売を始めたい！

悩み



精肉卸売業者

販路拡大に向けて、
ネット販売を始めたいな！
でも、どのくらいの費用や
期間がかかるんだろう？



対応



- ✓ BASEやメイクショップ*など、
各種サービスの比較・説明
- ✓ 販売サイト開設に係る概算費用
や構築期間についての説明

* ネットショップ作成サービス

★ 派遣支援を通じて、人材不足や商品の棚卸し作業が
複雑化しているなど、今まで不明瞭だった業務の
課題も明確に！

➤【相談事例②】 サービス利用者や社員同士との連絡ツールを導入したい！

悩み



訪問看護業者

プライベートのLINEアカ
ウントを使うことは避けたい。
何かうまい方法はないかな？



対応



- ✓ **「LINE WORKS（無料版）」
の活用提案**
- ✓ 導入の仕方や使用方法の説明

★ 派遣支援後、実際に「LINE WORKS」を導入し、
社内外の連絡ツールとして活用！

➔ 中小企業のデジタル化支援については、より多くの事業者を活用していただけるよう、「うつのみやデジタルスクエア※」と連携し、積極的に事業を周知していく！

※次スライドで概要を紹介

【参考】 うつのみやデジタルスクエア（Webサイト）

- 自治会等の地域活動団体などが、それぞれのニーズにあったデジタル技術を活用していくことを応援する総合情報サイトを公開し、先進事例・成功事例を紹介

※ 今後、本サイトを改修し、支援対象に中小企業を追加予定



LEARNING
学びの場

身近な取り組み事例

質問掲示板で気軽に相談

COMMUNITY
交流の場

いつでも学べる
セミナー・講座

あなたにピッタリの
解決方法が見つかる！

親切・多様なITの専門家

「見よう見まね」で
やってみよう！

パートナーと一緒に
やってみよう！



URL : <https://u-digitalsquare.jp/>

④ デジタル社会基盤の強化 『多機能型デジタルサイネージ』

➤ デジタルを活用して**公共交通利用者の利便性向上や来訪者の回遊促進を図るため**、ライトライン沿線や観光拠点にある**市有施設7箇所**において、タッチ操作で情報を取得できる**多機能型デジタルサイネージを設置**し、公共交通や観光等の情報を発信

■ 設置場所

ライトライン沿線の施設

- ① 宇都宮駅東口〈ライトキューブ宇都宮前〉停留場
- ② 宇都宮大学陽東キャンパス〈ベルモール前〉停留場
(上下ホームに各1基)
- ③ 清原地区市民センター前トランジットセンター付帯施設
(待合室内)

観光拠点の施設

- ④ 宮みらいライトヒル2階
- ⑤ 宇都宮市バンバ市民広場
- ⑥ 道の駅うつのみやろまんちっく村
- ⑦ 大谷コネクト



宇都宮駅東口〈ライトキューブ宇都宮前〉停留場のデジタルサイネージ

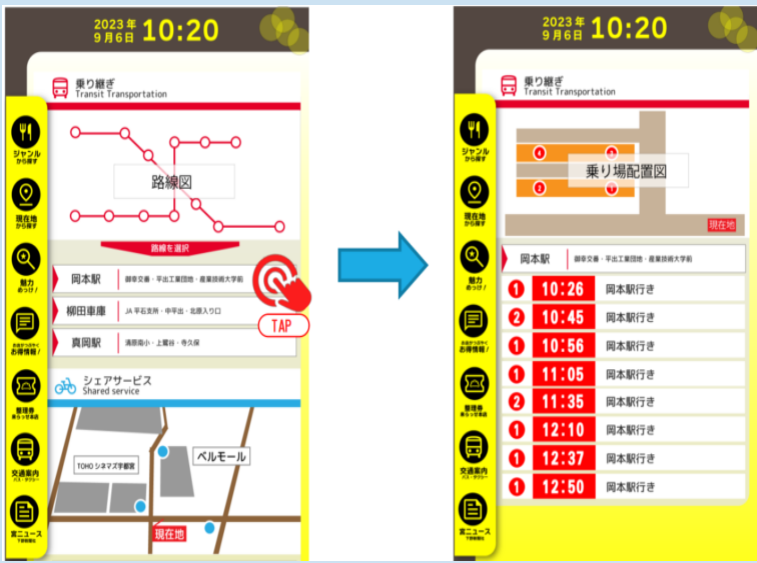
8月26日の運用開始から12月末までのタッチ数は延べ23万回以上!

➔ サービスの提供事業者と連携を強め、有益なコンテンツを提供し、更なる魅力創出・恒常的な利用を実現していく!

④ デジタル社会基盤の強化 『デジタルサイネージ』

(主な機能)

公共交通乗換案内



バスの路線名をタッチすれば、乗場案内や直近の発車時刻を見ることができます。(路線名と合わせて主要な停留場名が表示されます。)

→ L R T 停留場から公共交通へのスムーズな乗り換えに寄与し、利用者の利便性が向上します。

グルメ情報の発信



餃子やラーメン、カフェなどのジャンル別や現在地周辺の店舗から飲食店を探すことができます。

→ 食べたいものが提供されているお店や地域特有のお店が簡単に見つかります。

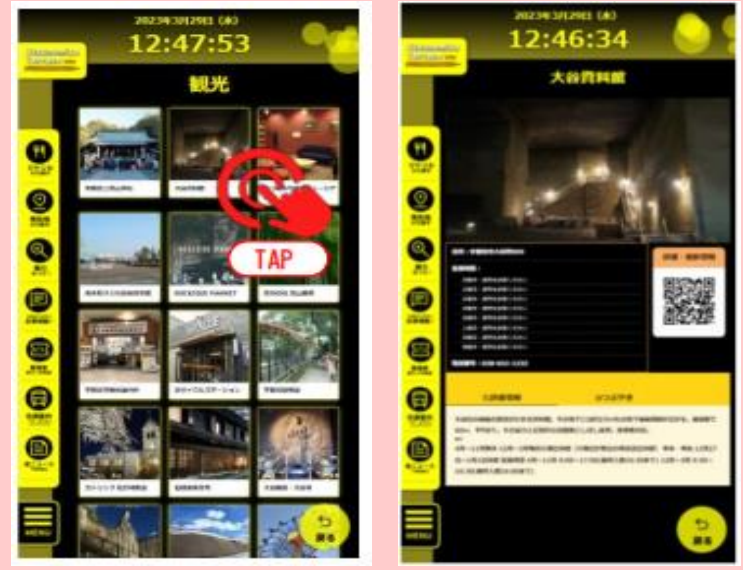
店舗等からの情報発信



店舗などが発信する混雑状況やタイムセールなどのリアルタイムな情報を見ることができます。

→ 今が旬のお得な情報を容易に取得することができます。

観光情報の発信



宇都宮市内の観光スポットがジャンルごとに表示され、タッチすることで詳細を見ることができます。また地図から検索できる機能も備えています。

→ 観光地の回遊がしやすくなります。

「コレメック宇都宮」との連携



LINEで飲食店情報や観光地を紹介するサービスである「コレメック宇都宮」と連携しています。

→ デジタルサイネージを離れても、移動中や自宅でコレメック宇都宮を介してデジタルサイネージで発信される一部の情報を取得できます。

デジタルサイネージをラリーポイントとして、スマートフォン等で参加できるスタンプラリーを開催します。

→ LRTの利用や市内の回遊をお楽しみいただきながら、貯めたスタンプの数に応じて、景品の抽選会に参加することができます。



広告の表示



動画または静止画



動画

静止画

全画面を使用する
縦型広告の場合

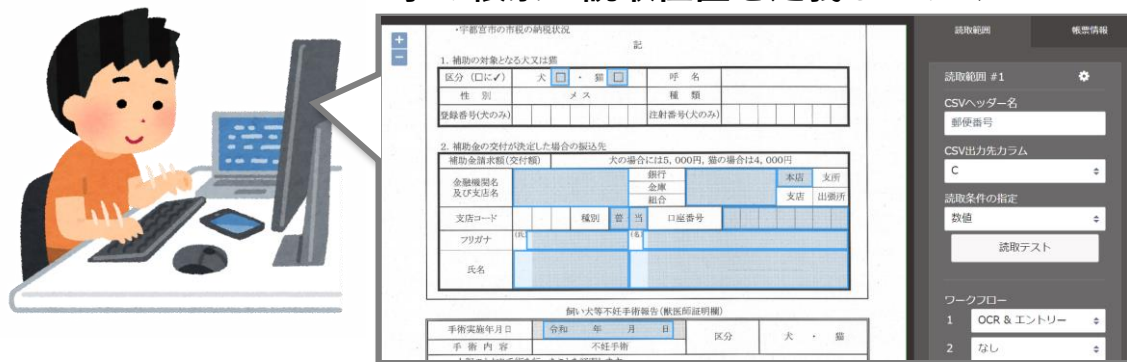
横型の動画を静止画を
交えて表示する場合

デジタルサイネージのタッチ操作が行われていないときは、広告が表示されます。

⑤ 業務のデジタル変革『RPA』

- RPA (Robotic Process Automation) は、PCにインストールした『ソフトウェアロボット』が、ローコードで記述されたシナリオに沿って、人に代わって、PCやシステムを自動操作するもの
- AI-OCR (Optical Character Reader : 光学文字認識) と組み合わせることで、紙→デジタル→自動入力を一連で処理でき、業務効率化が期待される。

予め帳票の読取位置を定義しておく...



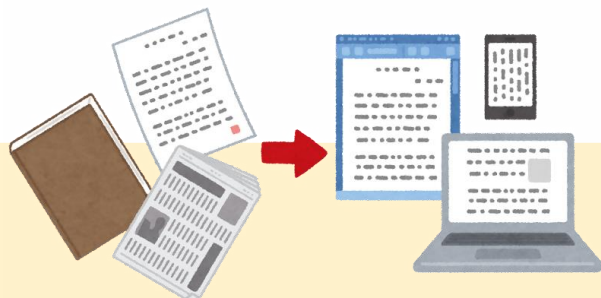
予め操作手順をシナリオとして作成しておく...



AI-OCR



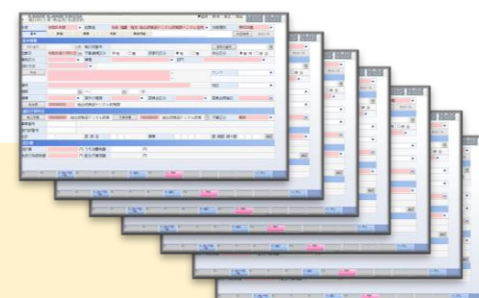
AIが該当箇所の文字等をテキスト化してくれる



RPA



RPAがシナリオに沿って入力してくれる

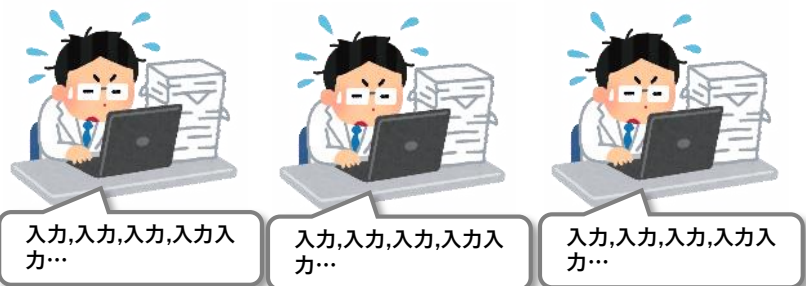


⑤業務のデジタル変革『RPA』

➤【取組例】RPA（自動入力ソフトウェア）の伴走支援

- RPA/AI-OCRは、令和元年度に実証、令和2年度に本格導入し、これまで10課13業務において試行錯誤しながら、実証・導入の事例を積み重ねてきた。
- 令和5年度は、「大量の作業をなんとかしたい」「定型的な作業を自動化できないか」などの相談があった8課室26業務に対して、デジタル政策課（+事業者）が業務内容のヒアリングを実施し、さらに福祉部門や税部門の業務など新たに6業務のシナリオ構築を行い、現在も、さらに取扱業務を拡大している。

Before



複数の職員が分担して
残業時間に入力作業



After

シナリオ'ポリジ'ッコウシマ

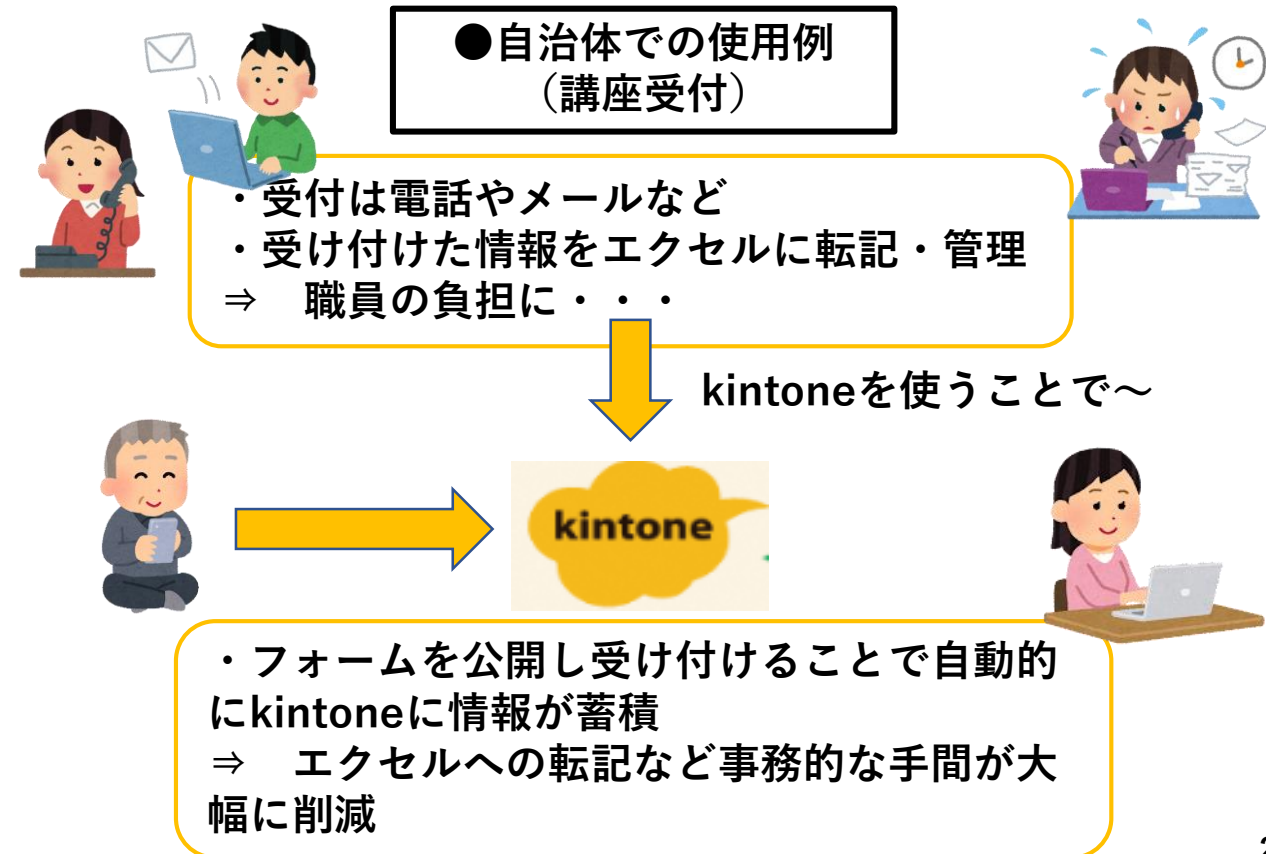
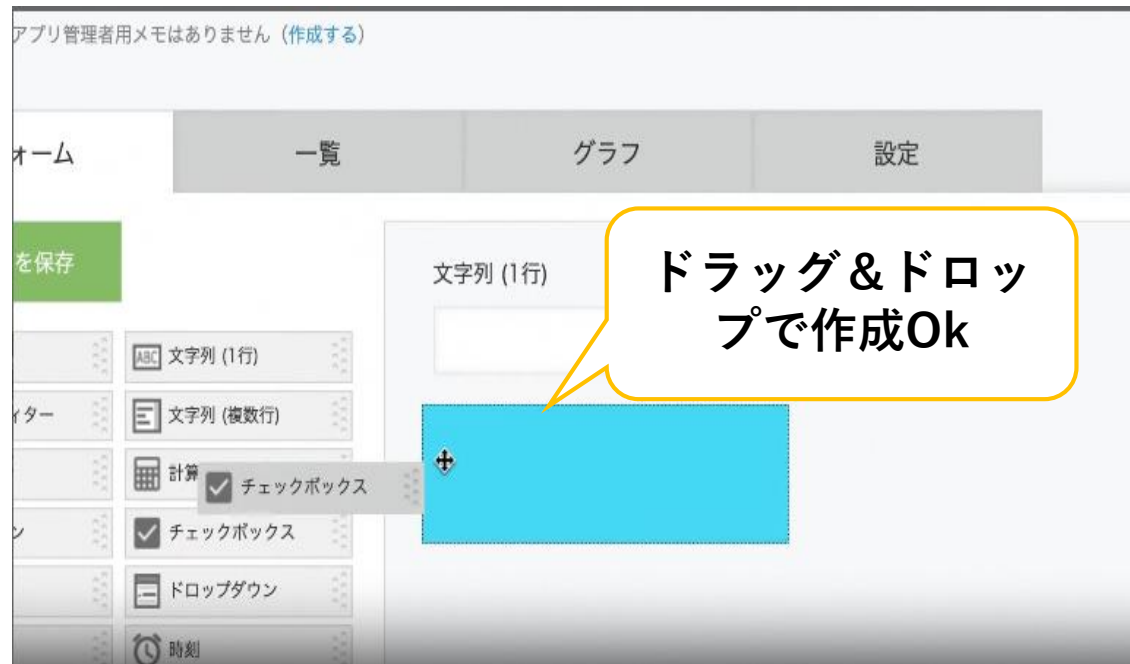


ロボットが動いている間、
他の業務をすることが
できたよ！

➔ どのような業務で活用でき、効果が期待できるのか庁内により広く周知するとともに、取扱業務の拡大に伴うRPAシナリオの運用・管理の効率化も実現していく！

⑤業務のデジタル変革『ノーコード開発ツール（kintone）』

- ノーコード開発ツールとは、プログラミングやシステム開発の知識がなくても、誰でも簡単にアプリケーションやWebサイトを製作できるツールである。
- 本市が導入しているサイボウズ株式会社のノーコード開発ツール「kintone」は、「ドラッグ&ドロップ」、「エクセルを読み込む」、「サンプルアプリから選ぶ」だけで簡単にアプリ（仕事に合わせた業務システム）が作成でき、データベース、照会ツール、案件管理などで活用可能



⑤業務のデジタル変革『ノーコード開発ツール（kintone）』

➤【取組例】ノーコード開発ツール（kintone）の伴走支援

- kintoneが業務で活用できることを広く庁内周知したうえで、毎週火曜日（1課1時間）に伴走支援を実施しており、12月末までに**37課を対象に65回の支援を実施**し、**約30個のアプリを実装**
- 伴走支援を活用した職員からは、「その場で希望のアプリが作れる！」「所属に持ち帰ってからもすぐに確認ができる！」と好評をいただいております、業務への活用の輪が広がりつつあり、**庁内のkintoneユーザーは169人に！**

伴走支援の内容

- ① 現在の業務フローの確認
- ② kintoneへ置き換えたい部分の確認
- ③ 一緒に「お試しアプリ」作成

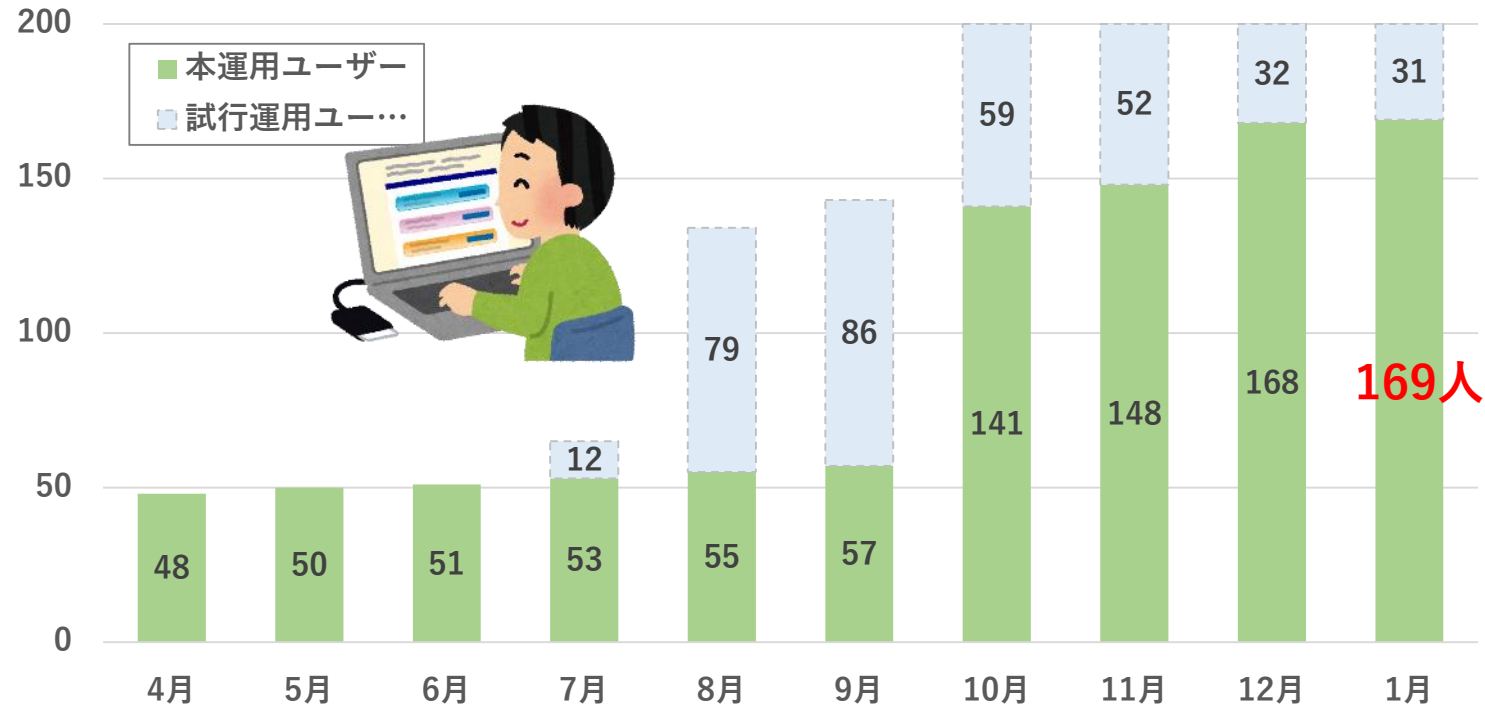


従来の業務の手法にとらわれず、kintoneを使った場合の効率化の観点を重視し、業務プロセス全体の見直し・再構築（BPR）も！！

伴走支援を通じて実際に実装したアプリの例

- 健康増進課.....栄養に関する相談内容管理アプリ
- 生活安心課.....空地に対する市民からの要望等の案件管理アプリ
- 中央卸売市場...施設等修繕依頼の情報・案件管理アプリ

kintoneを活用している職員数の推移（累積）



➔ 全庁的な活用が拡大する中、日々、問合せが続いている状況であり、今後、庁内で増大する需要に対応できるような全庁的な仕組みをつくっていく！

⑥庁内DX人材の育成・確保

➤本市DXの実現に向けては、前例にとらわれない方法で、**組織階層ごとに必要となる「人材」の育成・確保に取り組んでいる。**

**外部人材を積極的に登用し
市政に新たな視点を取り入れる。**

経営層
(幹部人材)

- 専門的知見を有する民間の人材を新たに「CDXO補佐官」「DX専門官」として任用

**高度なデジタルスキルを有する
「事務職」を短期間で育成**

DX推進層

〔デジタル政策課等
の
DX人材〕

- DX人材の計画的なジョブローテーション
- 民間人材との共創を通じたノウハウ習得と蓄積
- クラウド技術など高度デジタルスキルの習得

**職員一人ひとりの意識変革
自らの業務を自ら変革**

各所属

(デジタル人材)

- 全職員を対象に「DXマインド研修」を必修化し、デジタル人材を育成
- 各種デジタルツールの活用ワークショップを通じたDX人材候補者の発掘

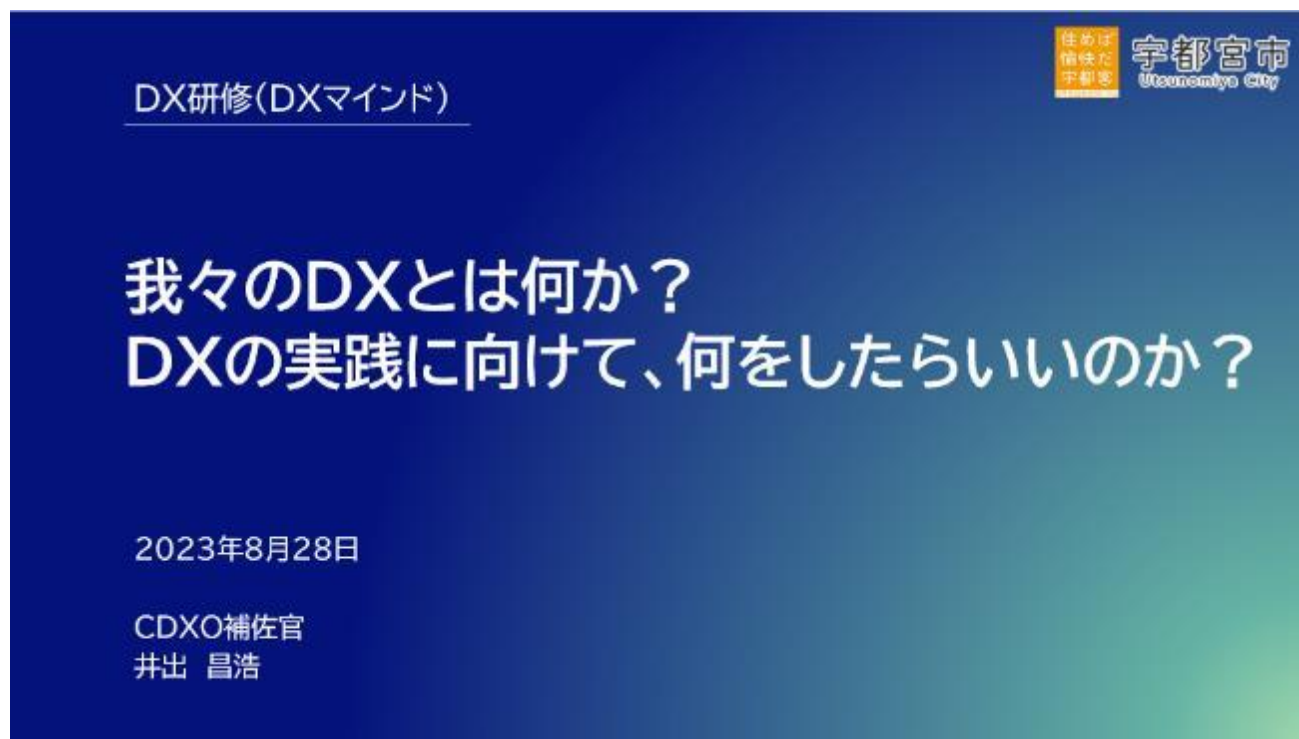
※DX人材：自ら積極的にデジタルの活用を検討するなど、DXを推進することができる人材

※デジタル人材：AI議事録作成サービスなど各種デジタルツール等を使いこなすことのできる人材

⑥庁内DX人材の育成・確保 『幹部人材の育成』

➤【取組例】井出CDXO補佐官による管理職向けDX研修

- 井出CDXO補佐官を講師として、全職員対象のDXマインド研修を実施（管理職は対面、その他職員は動画）
- 管理職に対しては、部下の業務に対する変革を受入れ、検討及び実行へと支援するよう意識醸成を図る。
- その他職員に対しては、デジタル技術を活用して、市民サービスの付加価値の向上を生み出そうとする組織・文化を創る意識の醸成を図る。



管理職対象DX研修 (R5.8.28)

➤【取組例】東専門官・下山専門官による専門研修の実施

- ・ DX専門官を講師として、職員を対象に研修・勉強会を開催
- ・ 他自治体における事例を通して市民等利用者目線での施策を考える「サービスデザインの勉強会」や、本市オープンデータを用いたデータ分析の実践を通してデータ利活用を考える「オープンデータ推進研修」を実施



東DX専門官による
サービスデザインの勉強会 (R5.2.28)



下山DX専門官による
オープンデータ推進研修 (R5.11.24)

⑥庁内DX人材の育成・確保 『デジタル人材の育成』

➤【取組例】川口専門官によるセキュリティ研修の実施

- 行政は、個人情報や業務上の機密など重要な情報を日常的に取り扱っており、**日ごろの業務における情報セキュリティの確保や巧妙化するサイバー攻撃の対策等の徹底に取り組む必要がある。**
- 情報セキュリティに係る能力開発及び意識啓発を促すため、川口DX専門官を講師として、全職員対象の「**情報セキュリティ研修**」を実施した。



Hiro KAWAGUCHI Laboratory

「ジブンゴト」で考える 情報セキュリティ(1)

自治体情報セキュリティ研修(一般職員向け・管理職向け)
2022年度-2023年度

川口弘行合同会社 川口 弘行

⑦スマートワークの実現

- 令和5年5月、**市長が各部局に庁内会議の原則ペーパーレス化を宣言し、紙から電子データの資料へ、**庁内の会議形態が急速にシフト**した。**
 - ➔ 紙の資料の印刷・製本などに係る**職員の事務時間が大幅軽減**
- 並行して、**各執務室・会議室に協議用の大型モニターを導入**するとともに、**庁内ネットワークの無線環境を整備**し、日頃の協議等のペーパーレス化や場所を選らばない柔軟な働き方の実現に向けて加速している。



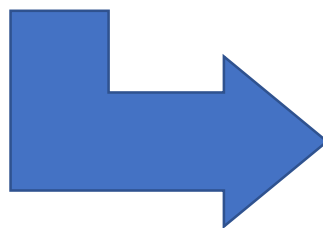
モニターに資料を投影して説明を行う本市職員



before



after



レスペーパー化・ネットワークの無線化により、紙やケーブルがなくなったスマートオフィス

⑦スマートワークの実現『コミュニケーションツールの導入』

➤ 職員間のコミュニケーションスピードの向上及び、ツールを前提とした業務プロセス刷新による業務効率化を図るため、コミュニケーションツール「LoGoチャット」を令和6年1月に全庁導入した。

緊急時は一斉送信

登録者全員に一斉通知することも簡単にできます。

ひと目でわかる

トークアイコンとトークグループ名が自由に変更できます。

個別にお知らせ

@（メンション）をつけておくことで、グループの中でも個別にお知らせできます。

キーワード設定

逃したくない情報は簡単キーワード設定でわかりやすくできます。

ファイル添付も簡単

ドロップ&ドラッグでデータ添付も簡単にできます。

状況把握ができる

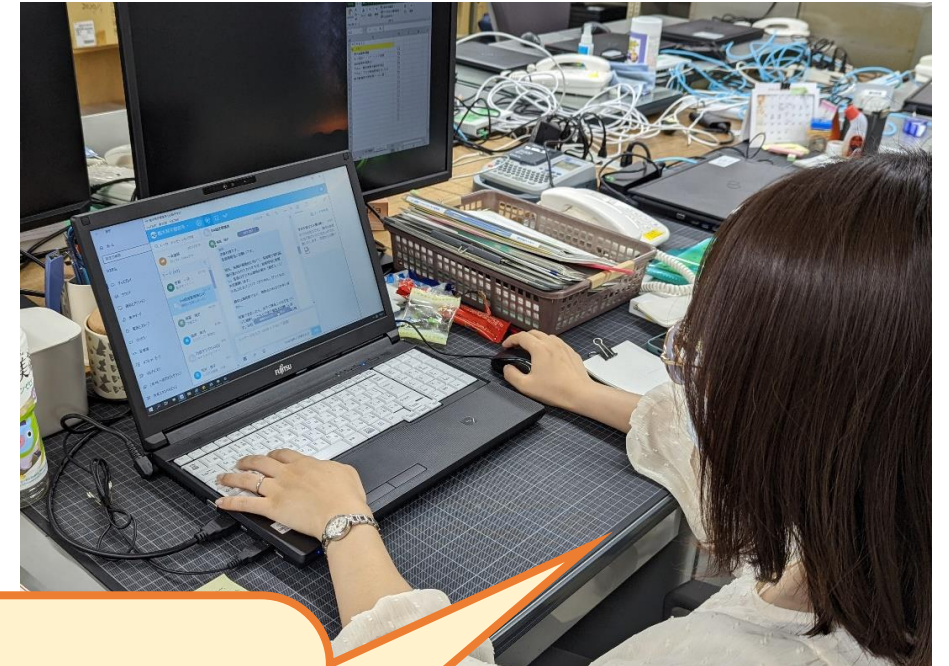
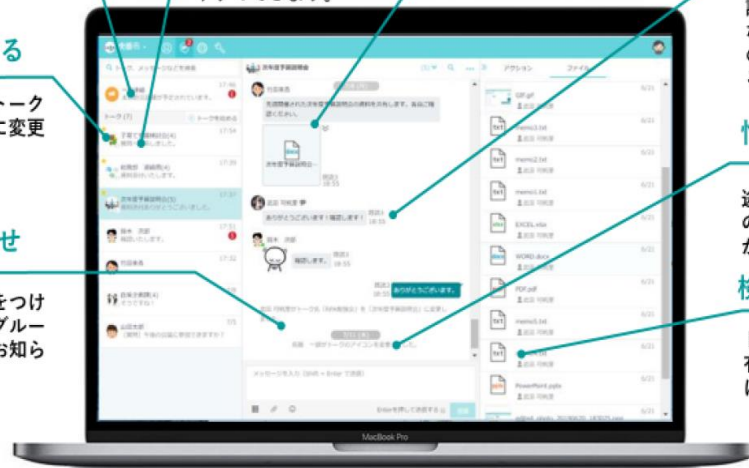
読んでいる人、読んでいない人がわかるため、次のアクションを適切に取ることができます。

情報伝達ミスを防ぐ

途中参加メンバーも過去のメッセージを見ることができます。

検索時間をカット

トークグループの中で共有されたファイルをすぐに検索できます。



《コミュニケーションツールを利用した職員の声》

- ・ 見て欲しい資料を即座に共有できる！
- ・ 電話の不在メモの付箋をチャットで伝達。伝え漏れも、確認漏れもなくなった！
- ・ 打合せ中の係長にも、緊急の報告を入れられる！
- ・ 在宅勤務の際に、簡単に業務報告ができる！
- ・ やりとりが記録に残るので、離席や休暇でも、あとからみんなのやりとりが確認できる！

➔ スマートワークの実現にあたっては、打合せスペースの創出など執務室環境の整備と合わせて検討を行う推進チームを立ち上げ、全庁的に取組を加速化していく！

⑧データの利活用『オープンデータの推進』

《参考》オープンデータの定義

国，地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち，国民誰もがインターネット等を通じて容易に利用（加工，編集，再配布等）できるよう，次のいずれの項目にも該当する形で公開されたデータのこと。

- ① 営利目的，非営利目的を問わず二次利用可能なルールが適用されたもの
- ② 機械判読に適したもの
- ③ 無償で利用できるもの

■ オープンデータの公開状況

【公開データ数】 296種類

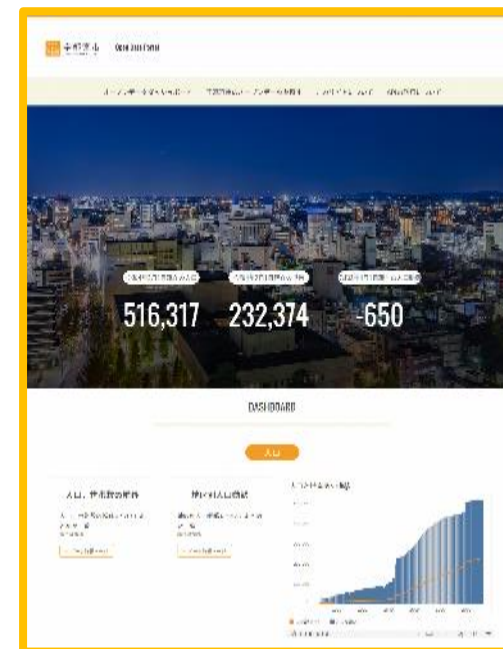
【主な公開データ】 人口統計，緊急避難場所一覧等

【データ公開所属数】 約60課室

【サービス開発等への活用実績】 5件

■ 本市における取組の経過

年度	取組
H26	・ 市HPでオープンデータの公開を開始
R2	・ オープンデータ活用者から活用事例を募集し，市ホームページで紹介する取組を開始
R3	・ オープンデータ専用サイト「宇都宮市オープンデータポータルサイト」の開設 ・ 公開中の全データを機械判読性が高い形式・様式となるよう見直し
R4	・ 市が保有する統計情報をオープンデータ化
R5	・ 企業・大学等を対象にオープンデータの認知・活用状況を調査



民間事業者のお出かけ情報サイトに本市の施設情報のオープンデータが活用されている。

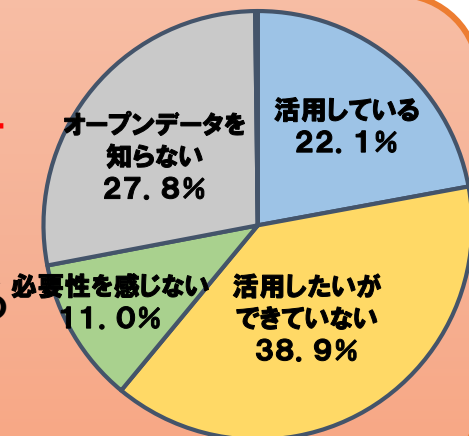


⑧データの利活用『オープンデータの推進』

- 保有するデータを二次利用可能な形式・ルールで公開し、分析やサービス開発などへの活用を促すオープンデータを推進していくにあたり、データ活用者の「ニーズが高いデータ」や「活用にあたっての課題」、 「行政に求める支援」等について把握するため、8月～10月にかけて企業・市内大学・地域のNPO法人（3,000団体）を対象に調査・分析を実施した。

活用したいデータの分野を問う設問で、「防災・安心・安全(47.3%)」「都市計画, 建物, 住宅(41.2%)」のニーズが高い。

全体の6割以上の団体がオープンデータの活用に意向を示しており、具体的な活用に至っている団体も約2割となっている。



オープンデータの利活用状況に関するアンケート調査
報告書

2023年9月

「データの公開場所が不明であること(35.3%)」「データ活用の人材不足(33.1%)」を課題と捉える団体が多い。

データ活用者に活用事例を伺ったところ、「企画提案資料や報告書の作成」や「ターゲットの選択, 経営状況の確認などのマーケティング」にオープンデータが活用されている。

- ➔ 今後は、調査回答を分析した結果を踏まえ、ニーズのあるデータの優先的な公開やデータ活用の支援などオープンデータの利活用を促進するための取組を展開していく！

■データアーキテクチャとは

- データを保有する各主体が、データの収集・他の主体との共有・活用を容易に行うために必要となる、データ整備や人材育成などの様々な要素・項目を、**網羅的かつ体系的**に取りまとめた文書のこと。

イメージ

第一階層	第二階層	第三階層
方針・体制整備	指針の整備	
	計画の整備	
	人材確保	全体推進の支援 実装支援

要素

第一階層	第二階層	第三階層	第四階層	
データ整備	アナログ情報のデータ化	ペーパーレス化		
	非構造データの構造化	地理情報データ		
	保有データの棚卸	表形式データの棚卸し		
		表形式以外のデータの棚卸し		
		棚卸結果の共有		
	データの品質管理	システム構築	ID管理 (付番, 交合, 更新, 履歴)	
			メタデータ管理	
			バリテーション	
	アーキテクト		課題の特定	
			改善点の特定	
		結果の可視化と共有		

項目

宇都宮市における
データ利活用の推進

第一階層	第二階層	第三階層	
行政内部での利活用促進	データの内部共有の仕組みの構築	データレイク	
	データ分析基盤の整備		
	人材育成		研修コンテンツ作成 研修実施
			コミュニティによる人材育成 資格取得支援
	ユースケースの創出		全国の事例共有 組織内事例収集

第一階層	第二階層	第三階層	第四階層
オープンデータ	利用規約の整備	標準利用規約 自治体独自の利用規約	
	人材育成	研修コンテンツ作成 研修実施	
		広域コミュニティによる人材育成 資格取得支援	
整備		標準化	自治体標準データセットへの対応 規定が存在しないデータの標準化
		利用者からのフィードバック対応	
公開		公開場所の確保	カタログサイト 自治体公式Webサイト
		公開数の拡充 公開形式の拡充	API公開
		品質の向上 検索性の向上	メタデータ連携
利活用促進		民間企業に対する利活用促進 大学・研究機関に対する活用促進	
		ユースケースの創出	

必要な要素・項目がすべて構造化されている。

↑ 現在、検討・作業中のデータアーキテクチャ

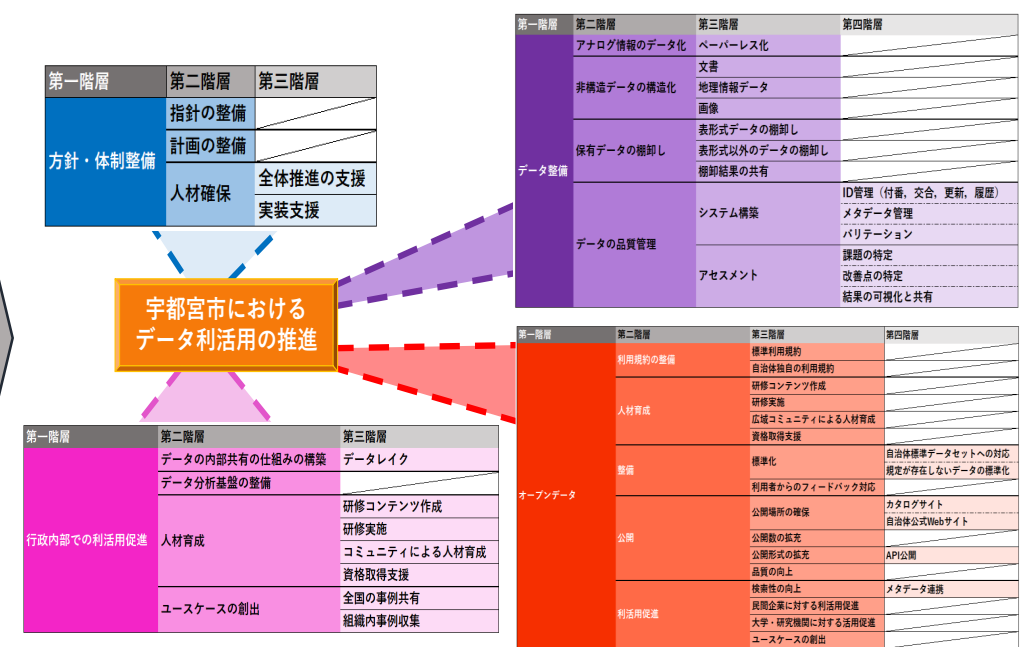
■ データ利活用の取組の展開の状況

➤ 官民のデータ利活用の推進に向けて必要な具体取組は多岐にわたるが、**本市では取組の棚卸や優先順位付けをしておらず**、個々の取組を独立的に進めている状態にある。

➔ **データアーキテクチャの必要性が高まっており、今後これらを構築し、それを見取り図としながら、データ利活用に係るツールやルールの整備など、具体の取組を進めていく。**

✓ 官民のデータ利活用の推進に必要な要素・取組は多岐に渡る

✓ 必要な取組を網羅的・構造的にドキュメント化



令和5年度における取組の総評

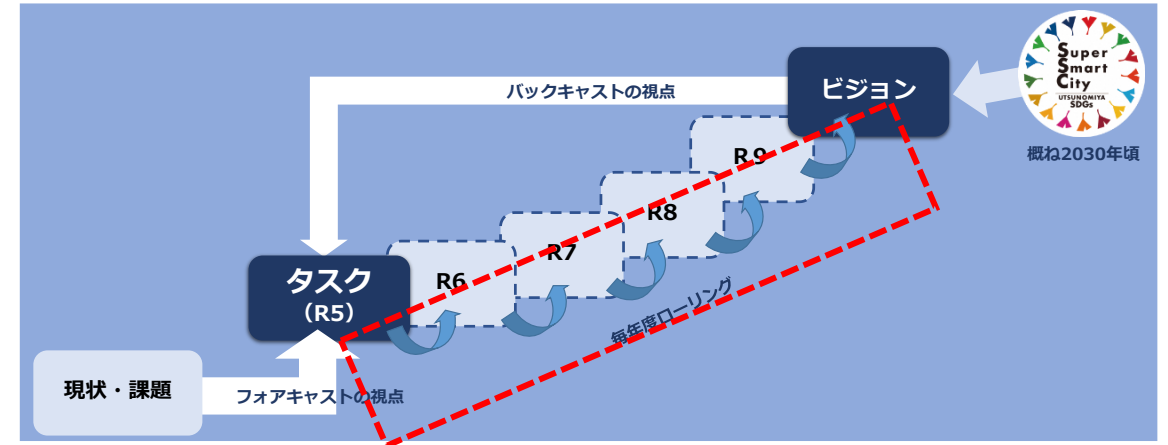
「宇都宮市DX実現タスク」について、10月末時点においては、各取組が概ね順調に進捗している。今後も市民生活の質の向上や多様化・複雑化する地域課題等の解決に向け、全市を挙げてDXに取り組んでいく。

宇都宮市DX実現タスクの進捗状況

重点取組事項（8項目）	取組数			KPI （重要達成度指標）
	当初想定より進み	計画通り	やや遅れ	
①SSC実現に向けたデジタルサービスの提供等	0/37	36/37	1/37	デジタルサービスの恩恵を受けている市民の割合 R4:46.8% ⇨ R5.10末:集計中 ⇨ R9目標:66.0%
②スマート窓口の実現	1/8	7/8	0/8	行政手続きオンライン化数 R4:100手続 ⇨ R5.10末:192手続 ⇨ R9目標:500手続
③デジタルデバイト対策・デジタル人材育成	0/6	6/6	0/6	宮デジサポーター養成人数 R4:0人 ⇨ R5.10末:21人 ⇨ R9目標:120人
④デジタル社会基盤の強化	0/2	2/2	0/2	マイナンバーカード普及率 R4:49% ⇨ R5.9末:72% ⇨ 計画期間中目標:100%
⑤業務のデジタル変革	0/6	6/6	0/6	AI/RPA活用業務数 R4:14業務 ⇨ R5.10末:17業務 ⇨ R9目標:120業務
⑥庁内DX人材の育成・確保	0/6	6/6	0/6	ローコード・ノーコード開発ができる職員数 R4:30人 ⇨ R5.10末:141人 ⇨ R9目標:300人
⑦スマートワークの実現	0/3	3/3	0/3	執務室改善着手フロア数 R4:1フロア ⇨ R5.10末:4フロア ⇨ R9目標:本庁舎全フロア
⑧データの利活用	0/5	5/5	0/5	国の推奨データセット公開割合 R4:78% ⇨ R5.10末:78% ⇨ R9目標:100%

■ 策定の趣旨

日々進展するデジタル技術や各取組の進捗状況、改定された国の「自治体DX推進計画」等を踏まえ、宇都宮市DX実現タスクの内容を令和6年度版に見直すもの



■ ローリングのポイント

宇都宮市DX実現タスクは、現状・課題を踏まえた「フォアキャスト」の観点と宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョンの達成に向けた「バックキャスト」の観点から策定している。

このため、ローリングについても、

- ①国の「自治体DX推進計画」の改定の内容を反映
- ②タスクの各取組の進捗状況を反映
- ③庁内における令和6年度の事業実施計画を反映

フォアキャストの観点

- ④CDXO補佐官・DX専門官の意見・助言（最新の技術動向や他市事例等）

バックキャストの観点

を踏まえて実施する。

➡ 具体的な内容を別紙でご説明します。

【参考】自治体DX推進計画の改定の内容

○自治体DX推進計画における重点取組事項

2. 1版 (R5.11)	2. 0版 (R4.9)
①自治体フロントヤード改革の推進 各自治体の実情に応じた創意工夫で、新しいフロントヤード（住民と自治体の接点）を実現	行政手続きのオンライン化
②自治体情報システムの標準化・共通化	自治体情報システムの標準化・共通化
③マイナンバーカードの普及促進・利用の推進	マイナンバーカードの普及促進
④セキュリティ対策の徹底	セキュリティ対策の徹底
⑤自治体のAI・RPAの利用推進	AI・RPAの利用推進
⑥テレワークの推進	テレワークの推進

【取組方針】

- 1 住民の接点の多様化・充実化（手続きのオンライン化，オムニチャネル化等）
- 2 データ対応の徹底（データに基づく業務改善）
- 3 改革による人的・空間的リソースの最適配置

議事(2) 宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョンの実現に 向けた意見交換

本日の意見交換のテーマについて

- 本市における今後の取組・検討を強力に展開できるように、宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョンで提起する「デジタル活用に係る主要な課題」をテーマとして、所属団体のデジタルに係る取組や課題、将来的な目標などを踏まえたご意見をいただきたい。

【意見交換のテーマ】

DXの推進に
向けた環境の構築

デジタルデバイド
対策の強化

デジタル人材
の活用

データ利活用と
セキュリティ対策
の強化

- 4つのテーマのうち、ご所属の団体に関連深いものについて、取組事例・課題と考えていることなど、率直なご意見をいただきたい。

■ いただいたご意見・意見交換の結果の取扱いについて

- **DX実現タスクへの反映や市関係課の施策展開**など、本市における今後の検討に活用します。
- 本懇談会の議事録作成にあたって、ご意見内容や発言者名の記載可否を事前に確認させていただき、了承を得た範囲で市ホームページ等に公開します。